

す、是は其凡そのおもとをいふのみ。ちゞみはくぢらざし三寸さんすんを定尺じょうしゃくとす。績はじはじむるより織おりおろし曬さらしあげて端はんになすまでの苦心勞繁くしんろうはんおもひはかるべし。（中略）

縮くびきをおる處のものは娶よめえらぶにも縮くびきの伎わざを第一とし、容儀ようぎは次つづとす。このゆゑに親たるものは娘の幼おさなより此伎わざを手習てうならしするを第一とす。十二三歳じゅうにさんさいより太布おほふをおりなはす、およそ十五六より二十四五才まで女の氣力盛きりきさうなる頃にあらざれば上品じょうひんの縮くびきは機工きこうを好せず、老に臨おほなでは綺面きめんに光沢なくして品質ひんしつくだりて見ゆ。貴重きいちょうの専用せんようはさら也、極品ごくひんの誂物あつものは其品そのひんに能熟のうじゆくしたる上手じょうしゅをえらび、何方いづくの誰々だれなれと指ゆびにをらるゝゆゑ、そのかずに入らばとて各々おののおの伎わざを励む事也。（後略）

○機婦の発狂

ひとゝせある村の娘、はじめて上々のちゞみをあつらへられしゆゑ大に喜び、金匱きんせんを論ろんぜず、ことさらに手際てきをみて名をとらばやとて、績はじはじめより人の手をからず、丹精だんせいの日数ひかずを歴て見事に織おりおろしたるを、さらしやより母が持ちきたりしきゝて、娘ははやく見たく物をしかけたるをもうおきてひらき見れば、いかにしてか匂におほどなる煤まいいろの量りょうあるをみて、母かさまいかにせんかなしやとて縮くびきを顔おほにあて、哭倒こだれるが、これより発狂はっくうとなり、さまざまの浪言ろうごんをのゝりて家内うちないを狂くるはしるを見て、両親娘が丹精だんせいしたる心の内うちないをおもひやりて哭なきけり。見る人々もあはれがりてみな袖そでをぬらしけるとぞ。友人なにがしがものがたりせり。

（中略）

さて晒さらしやうは縮くびきにもあれ糸いとにもあれ一夜灰汁くろじに浸ひしおき、明の朝幾度かうじうども水に洗あらひ絞しづりあげてまへのごとくさらす也。貴重尊用きいちょうそんようの縮くびきをさらすはこれらとはおなじくせず、別にさらし場ばをもうけ、よろづに心を用ひてさらす事御機ごときをおるに同じ。我国わがくににては地中の水氣雪すいきせつのために發動はつとうざるにや、雪中には雨まれ也、春はことさら也。それゆゑ件くだんのごとく日にさらす晴はれつゞく事あり。さて灰汁くろじにひたしてはさらす事、毎日おなじ事をなして幾日を歴て白々をなしたるのちさらしをはる。やがてさらしをはらんとする白ちゞみをさらすをりから、朝日あかと昇あがて玉屑平上ぎょくせつへいじょうに列はたる水晶白すいしょうはくき筵きしやんをしきならべ四方に注連しゆれんをひきわたし、その中央に機きを建たる是これを御機ごときし、御機ごときにかかるときは衣服いふくをあらため、塩垢離しおごりをとり、盥漱あわせくぎこと、身みを清きよむ、毎日まいにちにかくのごとし。紅潮こうしゅうをいむ事は勿論もうらん也。（後略）

○縮くびきを曬さらす

（前略）

晒さら人は男女ともうちまじり身を清める事織女おりめの如くす。さらすは正月より二月中の為業也。此頃はいまだ田たも圃はも平一面ひらいちめいの雪の上なれば、たはたの上をさらし場とするもあり、日の内にさらし場を踏ふへしたる處あれば、手頃てごろの板に柄いをつけたる物にて雪の上を平かにならしおく也。かくせされば夜の間に凍こごめ「しみ」つきてふみへしたる處そのまゝ岩のごとくになるゆゑ也。晒場には一点の塵じんもあらせざれば、白砂しらすなの塩浜しおはまのごとし。さて白ちゞみはおりおろしたるまゝをさらす、余のちゞみは糸につくりたるを拐かせにかけてさらす。その拐かせとは細き丸竹を三四尺ほど弓ゆみにしてその弦くに糸をかけ、拐かせながら竿さおにかけわたしてさらす也。白ちゞみは平地の雪の上にもさらし、又高さ三尺あまり長さは布ほどになし、横幅よこはは勝にまかせ土手のやうに雪にてつくり、その上にちゞみをのばしならべてさらすもあり、かくせざれば狗けなど踏ふみ越こてちゞみをけがすゆゑ也。こゝに拐かせをならべてさらしもする也。

○御機屋

貴重尊用きいちょうそんようの縮くびきをおるには、家の辺りに積のもりし雪ゆきをもその心して掘ほすて、住居の内うちにてなるたけ烟けの入らぬ明りもよき一間ひとまをよくくよき清め、あたらし屋やと唱となへて神かみの在いがごとく畏尊おとおせんひ、織人おりの外他人ほかを入れず、織女おりは別火べっぴを食くし、御機ごときにかかるときは衣服いふくをあらため、塩垢離しおごりをとり、盥漱あわせくぎこと、身みを清きよむ、毎日まいにちにかくのごとし。紅潮こうしゅうをいむ事は勿論もうらん也。（後略）